

校長室だより

春日 (しゅんじつ)

校長 清武 直人

親の心

「私の子どもも小学1年生になりました。学校が楽しいという我が子の言葉が何よりの幸せです。」

28年前に卒業させた子どもからの年賀状です。一見あたりまえのように見えることが、親にとってどれだけ幸せなことか。

子どもの心の声に耳を傾け
親の心を察しながら
新しい年のスタート

成長



「最近音楽がとても好きになりました。・・・今では、自分で作曲・編曲したりキーボードを弾いて独学でピアノの練習をしたりしています。夢は、ショパンのノクターンが弾けるようになることです。」

8年前に出会った子どもからの年賀状です。当時4年生でした。学校に行き渋り、学校に来たときには校長室で一緒に過ごしていました。

その頃は、「廃墟」にすごく興味を持っていました。お母さんはそこのとがいやでした。でも、今この子は「朝日」が好きになり、「朝日」の写真を撮っているそうです。そしてまた、「音楽」が好きになり、作曲や編曲を楽しむようになりました。

人にはだれにでもそれぞれに必要な時間と
通らなければならない道がある
この、今のために

うふふ



「明けましておめでとうございます。昨年はめいわくをかけてすみませんでした。」

春日小学校の男の子からの年賀状です。思わず「うふふ」と笑ってしまいました。

この1枚の年賀状で、あのこともこのことも、全てが可愛らしい思い出に大変身!



げんちゃん

25年前に担任をしていた子に「げんちゃん」と呼ばれる男の子がいました。上靴を履かずに裸足で歩き回っていたものですから、友達から「はだしのゲン」と呼ばれるようになり、いつの間にかそのことから「げんちゃん」が彼の愛称となりました。



アトピーと喘息で、学校を休みがちでした。小学校までは何とか学校に来ていたのですが、中学校になってからは、ほとんど学校に行けなくなってしまったそうです。

その「げんちゃん」と先日久しぶりに会いました。現在、小学校の図書司書の仕事をしています。

彼の話によると、学校に行けなくなってからは、毎日、町の図書館に通っていたそうです。そんな中で、図書司書という仕事があることを知り、図書司書になることが自分の目標となっていったそうです。

中学校を卒業し、高校にも通っていませんでしたので、まずは大検(高校卒業の資格を取る検定試験)の合格を目指して自力で勉強をし、さらに、通信制の大学に入学して図書司書の資格を取ったということでした。



げんちゃんにも
彼に必要な時間と
通らなければならない道がありました
この、今のために

